

平成22年度
モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
静岡大学教育学部附属浜松小学校 実施結果概要

（様式 3-2：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度 実施結果報告書）

実施結果報告書

1. テーマ：よりよいバス交通の在り方を考え，提案するまちづくり学習			
2. 実施教科等：総合的な学習の時間			
3. 関連単元： 総合的な学習の時間の地域学習 社会科の身近な地域の学習			
4. 実施授業時数：15			
5. 実施学年・クラス	3年2組	6. 児童生徒数	43人
7. 実施内容			
<p>①地域の人々にとってよりよい公共交通とはどのようなものかを考える。（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなバスや電車があったら地域で暮らす人々にとって役立つだろうか，環境にやさしいバス・電車とはどのようなものだろうかなどの共通課題をもつ。 <p>②調査活動を行い，バス交通の現状や課題をつかむ。（7時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達にインタビューして，身近な人々の思いを知る。 ・時刻表や路線図を見たり実際にバスに乗って見学したりして，どんな人が利用しているか，どのような路線を通っているか，どのような時間帯に運行しているかなどを調べる。 ・遠州鉄道事業部の方の話を聞く。 ・コミュニティバスに乗って，バス事業者が地域の人々にとってよりよいバス交通を考えて新しいバスを運行していることや，コミュニティバスが環境に優しいことをつかむ。 <p>④調査活動を基に，自分なりの提案を考える。（5時間）</p>			

8. 学習のながれ：

時	○学習活動
1	○本単元の共通課題をつかむ。
2	○公共交通をよりよくするための方法を考える。
3	○同じ交通機関について課題をもつ仲間とともに、浜松市の交通をよりよくするためのアイデアについて話し合う。
4	○学習の計画を立てる。
5	○調査活動を行ったり、調べたことを振り返ったりして、自分なりの学習活動を進める。
6	
7	
8	○調査活動を通して分かったことや気付いたことなどについて仲間と話し合い、自分の考えを明確にしたり、新たな提案を考えたりする。
9	○校外学習の計画を立て、自分なりのねらいを明確にする。
10	○校外学習で公共交通の様子を観察したり、バス会社の人や利用者にインタビューしたりする活動を通して、自分の提案の妥当性を確かめたり、新たな提案を考えたりする。
11	○校外学習で調べたことを振り返り、自分の提案を修正・改善する。
12	○特に提案したいことについて、自分なりの方法でまとめる。
13	
14	○これまで模索してきたことを専門家に発表する。
15	○自分の提案を報告書にまとめる。

※指導計画書や教材、授業写真、子どもの作品などは、別紙で報告します。

※指導計画書や学習で使った教材、学習風景を撮影した写真、児童の作品などを添付して提出してください。

第3学年2組 総合 単元構想 「われら、子ども市長！ ～子ども市長のまちづくり～」

実践者 大宮 英揮

1 子どもの実態と教師の願い

子どもは、「ようこそぼくたちわたしたちのまちへ」「学校のまわりのちいきをよりよくしよう」「公園パワーアップ大作戦」「浜松のおいしさを味わおう、広げよう」などの3年生の総合の学習を行ってきた。その際に、どの単元においても、「子ども市長」として、まちのよさや課題を子ども立場から見つけて、それらをよりよくするためのアイデアを模索し、実行したり提案したりする学習を行ってきた。

これらの学習においては、子どもが日常感じていることや抱いている思いや願いを出発点とした。最初は、自己中心的な考えが見られたり根拠のない思いつきの考えをもつ子どもも見られたが、実際に地域の様子を観察したり地域で暮らす人々にインタビューしたりする追究活動を通して、次第に自分の考えを明確にしていくことができた。そして、どの単元の終末場面でも、自分の考えたアイデアを実行したり提案したりすることができた。

このような学習を通して、実践者は、子どもが自分の暮らす地域に目を向けることにより、自分も地域で暮らす主体の一人であることを実感するとともに、地域をよりよくするために自分ができることがあるという自己有能感を味わってほしいと願っている。そのためにも、子どもがアイデアを模索する段階では、子どもらしい思いや願いを大切にしたいと考えてきた。例えば、「学校近くの米屋は、米を売る店なのにお菓子を売っているのは、子どものことも考えてくれているのではないか」と予想した子どもは、自分の予想を確かめるために実際に米屋の店員にインタビューをする活動を行った。インタビューを通して、自分の予想が確かであったことを知った子どもは、米屋のために自分ができることはないかと考えた。そして、再度、子どもは米屋を訪れ、困っていることはないかを尋ねて、それを解消するために自分ができることを模索していったのである。

このような学習を一年間を通じて行い、多くの子どもは、自分なりの考えを模索する、模索したことを確かめるための学習活動を自ら考え実行する、学習を通しての自分なりの提案をまとめ発表する、という学習の流れをつかむことができた。

2 事象

本単元では、身近な公共交通をよりよくするために自分ができることを模索して、それをたしかめるための調査活動を行い、自分なりの提案をまとめて発表するという、学習活動を行う。

身近な公共交通を事象として選定した理由としては、まず、子どもの実態として、バスや電車などの公共交通に興味をもっている子どもが多いこと、通学でバスや電車を利用している子どもが多く子どもにとって身近な事象であることが挙げられる。このことは、子どもへの事前のアンケート調査からも明らかである。

事象のもつよさとしては、公共交通が環境や福祉など地域の課題を解決するのに役立つことや、多くの地域で暮らす人々が利用することから様々な人々のニーズを考えた提案を考えることができることを挙げることができる。子どもは、自分の立場からだけではなく、環境や福祉などの視点や、様々な人々の立場からよりよい公共交通について考えることを通して、自分も地域で暮らす市民の一人であることを実感することができるだろう。

本単元で取り上げる公共交通とは、具体的に利用する路線バスと、JRと遠州鉄道である。また、学習を進める中で、今までにはない新たな公共交通機関を考える子どももいると思われる。実際の浜松市における公共交通の現状や課題とともに、子どもらしい柔軟な発想をもとに、よりよい公共交通の在り方について模索させていきたい。

また、本単元において予想される調査活動としては、実際の地域の公共交通の様子を観察することや、公共交通に携わる人々にインタビューすることなどが挙げられる。どちらの活動も、自分の提案を模索することと、自分の提案の妥当性を確かめることをねらいに取り組ませることで、自分の提案をよりよいものへと修正・改善していくことができるだろう。このような調査活動を繰り返すことにより、次第に子どもは自分の思いや願いを膨らめて、実感の伴った提案を生み出すことができると考える。

3 単元目標

公共交通を利用者にとってよりよくする方法を考え提案するというねらいをもち、地域の公共交通の様子を観察したり公共交通に携わる人々にインタビューしたりする活動を通して、自分の提案をよりよいものへと修正・改善しようとする事ができる。

4 単元の流れ

(15時間扱い)

時	○学習活動
1	○本単元の共通課題をつかむ。
2	○公共交通をよりよくするための方法を考える。
3	○同じ交通機関について課題をもつ仲間とともに、浜松市の交通をよりよくするためのアイデアについて話し合う。
4	○学習の計画を立てる。
5	○調査活動を行ったり、調べたことを振り返ったりして、自分なりの学習活動を進める。
6	
7	
8	○調査活動を通して分かったことや気付いたことなどについて仲間と話し合い、自分の考えを明確にしたり、新たな提案を考えたりする。
9	○校外学習の計画を立て、自分なりのねらいを明確にする。
10	○校外学習で公共交通の様子を観察したり、バス会社の人や利用者にインタビューしたりする活動を通して、自分の提案の妥当性を確かめたり、新たな提案を考えたりする。
11	○校外学習で調べたことを振り返り、自分の提案を修正・改善する。
12	○特に提案したいことについて、自分なりの方法でまとめる。
13	
14	○これまで模索してきたことを専門家に発表する。
15	○自分の提案を報告書にまとめる。

1 前時までの学び

第1時では、子ども達の交通に関する経験について話し合わせ、「もっとこうなるといい」「こうすると交通機関を利用するのに」という思いを出し合った。そして、これまでの総合の単元で行ってきたように、浜松の交通機関(バス・遠鉄電車・JR)をよりよくするために自分たちで考えたアイデアを実行に移したり提案したりする、という共通課題として設定した。子どもは、自分がよく利用する交通機関を選択し、どの交通機関についてよりよくするアイデアを考えていくかを決定した。そして、マンダラート法を用いて、自分の考える交通機関をよりよくする方法について模索することができた。

第2時では、今後の学習の計画を立てた。子どもは、最終的にアイデアを提案するまでに、インターネットで調べる、運転手や営業所の方にインタビューする等の学習活動ができると考えた。また、お年寄りや体が不自由な人などに、もっと交通機関がどうなるとよいかについてインタビューすることも有効であることが分かった。さらに、仲間の意見の中で、第1時で考えたアイデアが実際に浜松の交通機関で取り組まれていることに気付く子どももいた。

2 本時の評価規準

同じ交通機関(バス・遠鉄電車・JR)について課題をもつ仲間とともに、浜松市の交通をよりよくするためのアイデアについて話し合い、今後の見通しをもつことができる。

3 本時の流れ

学習活動	主な発音と予想される児童の反応	指導上の留意点
①本時のめあてをつかむ。	○浜松の交通をよりよくするアイデアについて話し合おう。	・これまでに総合の学習で行った学び方を想起させ、KJ法を用いて仲間とともに話し合うことが本時において有効であることに気付かせる。
②浜松市の交通をよりよくするためのアイデアについて話し合う。	○自分のアイデアを紹介して、友達の考えと比べよう。 ・バスの本数を増やすとお客さんがたくさん乗れるよ。 ・もっと運転手さんが優しく対応してくれるといいよ。 ・荷物を置くところがあるといいね。 ・私の乗るバスは、アイドリングストップをしているよ。環境にやさしい取り組みだね。 ・お年寄りのためのシートを作ることと点字を設置することは、体が不自由な人のためにできるアイデアとして分類することができるね。 ・大阪で乗ったバスは、車椅子の人でも乗ることができる工夫がされていたよ。	・KJ法を用いて、自分のアイデアを書いたカードと仲間のカードを、同じような内容ごとに分類させることにより、それぞれのアイデアを整理させる。 ・仲間のアイデアで、実際に浜松の交通機関で取り組まれていることや、他の地域で取り組まれていることについて話題にしながら、話し合わせる。
③本時の活動を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。	実際に浜松の交通機関でどのような取り組みが見られるかを調べに行こう。そして、もっとよいアイデアを提案できるようにしよう。	・話し合いを通して、生まれた疑問や調べたいことについて全体で共有し、今後の課題を設定する。

1 前時までの学び

これまで子どもは、公共交通機関を地域で暮らす人々にとってよりよくする方法を模索してきた。そして、実際の様子を調べたり家族や仲間にインタビューしたりして、自分が提案したいことについて明確にしてきている。そして、自分の提案を交通博士や市役所の方に発表する準備を進めることができた。

また、校外学習において、バスや電車に関する公共交通の様子や利用者の特徴などを調べたり、バス会社の方にインタビューしたりしたことを通して、自分の提案をより実際のニーズに合ったものへと修正・改善することができた。

2 本時の評価規準

公共交通機関を地域で暮らす人々にとってよりよくする方法について、これまで模索してきたことを発表し、専門家の意見やアドバイスを受けることを通して、自分の提案のよさを感じたり、自分の提案をよりよいものへと修正・改善したりすることができる。

3 本時の流れ（14/15）

学習活動	主な発音と予想される児童の反応	指導上の留意点
①本時のめあてをつかむ。	○専門家に、交通を通してまちをよりよくするための提案を発表しよう。	
②浜松市の交通をよりよくするための提案を発表する。	○自分の提案を発表しよう。 ・お年寄りや体の不自由な人のために、役立つこと考えたよ。 ・大人は時計や携帯電話で時刻を知ることができますが、子どものぼくらは時計を持っていません。電車やバスに時計を付けるとよいと思います。 ・マンガを読んで、昔はトロリーバスが走っていたということを知りました。トロリーバスは、排気ガスをあまり出さないし、懐かしくて観光客も利用すると思うので、トロリーバスの復活を提案します。 ・子どもにとってバスを利用しやすいように、案内に読みがなをつけることや、ナイスバスを子どもでも分かる言葉にすることを提案します。 ・電車がそのまま線路を外れてバスのようになって走る乗り物があることを知りました。浜松市でもそれがあると乗り換えをしなくていいかららくちんです。	・発表する際には、専門家だけでなく、学級全体に分かりやすく伝えることができるような発表を心掛けることを伝える。 ・仲間の提案を聞く際には、仲間へのアドバイスや自分の提案に参考になることをメモするように伝える。また、仲間の提案を聞く態度を意識させるために、発表後に、子どもからの質疑応答の時間を設けることを伝える。
③専門家の意見やアドバイスを受け、交通についての話を聞き、本時の感想を書く。	・友達や交通博士、市役所の方の意見やアドバイスを聞いて、自分の提案でバスや電車をもっとよくすることができることが分かったよ。いつかは自分の提案を採用してもらえるとうれしいな。 ・市役所の方もバスをもっと利用してほしいと言っていたよ。私の提案が採用されればバスを利用する人が多くなることが分かったよ。 ・専門家の意見やアドバイスを聞いて、自分の提案はもっとよくなると思ったよ。	・仲間の提案への意見やアドバイスも自分の提案の参考になることを伝え、必要なことをメモにとるよう指示する。 ・さらに自分の提案をよりよくしようと修正・改善させるために、次時には、自分の提案を整理して、バス会社やJRに学級の提案をまとめて報告することを伝える。

総合(14/15)子ども市長アイデア発表会 子どもの提案内容

	氏名	グループ	内容
8		エコ	エコのために電車の電気を少なくしよう
32			自分たちの考えたエコのバス
38			アイドリングストップ車を増やそう
4		トロリーバス	トロリーバス復活 なつかしの電気バス
13			トロリーバス復活
25			トロリーバス復活
31			トロリーバス復活
5		子どものために	子どものために漢字に読みがなをつける。
41			ナイスパスを子どもに分かりやすくする。
1		お年寄りや体の不自由な人のために	お年寄りや体の不自由な人のために
16			段差を少なく
20			出口を二つにする
27			お年寄りや体の不自由な人のために
37			不自由な人の気持ちを知ってほしい
39			お年寄りや体の不自由な人のために入り口を安全に
40			出口を二つにする
3		ポスター	ポスターでルールを知ろう
11			ポスターで悪いマナーを減らす
22			よいマナーを取り戻せ
33			バスの中にゴミを捨てさせない
34			電車の悪いマナーをポスターで直そう
35			荷物をひざの上に置こう
36			ポスターをつくって忘れ物を減らしたい
14		時計	バスに時計を付けよう
17			バスに時計を付けよう
21			赤電に時計をつけよう
18		意見箱	バスの模型をつくってそこに意見を書いてもらう
19			バスの模型をつくってそこに意見を書いてもらう
30		音楽	運転をしているときも音楽を流そう
23			バスの中で子どもから大人まで楽しめる音楽を流したい
10		専用車両	小・中・高の子ども専用車両をつくろう
42			お年寄り専用車両を作ろう
6		絵を飾る	バスの中に子どもの絵を飾ってほしい
28			バスの中に子どもの絵を飾ってほしい
2			くるるの新ループをつくりたい。
7			赤電にトイレをつけよう
9			山間地のバス停をよりよくしたい
12			電車とバスののりつぎをよくしよう
15			浜松祭り会場などの特別直行便を増やす
24			運転手さんへのお願い
26			新しい荷物掛けを考える
29			子どもを独り立ちさせるための保育士つきバス
43			バスの時間に遅れないための工夫 色付きは実際に発表したアイデア